

東京教区時報

第1144号
2009年11月22日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 伊藤裕元

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: comm.tko@nsk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

◇11月の代禱・信施奉献先
▽笹島キリスト教連絡会のため
▽滝乃川学園のため▽障害者週
間のため(8〜14日)▽人権活
動を支える主日(11月最終主日
11・29)

◇堅信受領

11月15日 神田キリスト教会

▽米山 秀(神田)

11月15日 神愛教会

▽守中光邦(神愛)

◆とこしえの平安

11月12日 大越 光代(89)

11月13日 磯合 朋子(48) 三光

聖マーガレット

▽ナザレ修女会黙想会 主の

ご降誕を迎える心の準備…。11
月26日(木)10時半から同会聖

今週・来週の予定

11月22日～12月5日

- 22(日) 降臨節前主日
主教巡回 清瀬聖母教会
光の礼拝(主教座)
城南G教会協議会(聖アグネス)
- 23(月・休) 第109(定期)教区会
- 24(火) 銀座朝拝会
教財務サービス委員会
主教選挙特別委員会
- 25(水) 教区教役者聖餐式(主教座)
- 26(木) 環状G牧師協議会(立教)
- 27(金) 教区企画室
主教座聖堂活動委員会
- 28(土) 人権委:祈りの会(聖バルナバ)
山手G光の礼拝(聖十字)
- 29(日) 降臨節第1主日
主教巡回 目白聖公会
下町G教会協議会(聖ルカ)
環状G教会協議会(清瀬)
- 12月
- 3(木) 月島・準備室
- 4(金) エ教区協働委員会
- 5(土) 正義と平和協議会・シンポジウ
ム(聖ヨハネ)

家族礼拝堂で。講師は浦地洪一
司祭(京都教区・退職)。携行品
は祈禱書・昼食。照会TEL0422
(48)4560。
▽みんなでつくるバリアフリー
のクリスマスパーティー 外濠グ
ループと教区「障がい者」関連活
動委員会共催、信仰と生活委員
会後援。12月5日(土)13時20
分〜16時、目白聖公会で。「互い
の個性をみとめあい参加者も主
催者とともにパーティーを造りあ
げる」趣旨が浸透して9回目。参
加費500円・定員50人、申込締め
11月28日、聖バルナバ教会会苑II
TEL03(3268)8067。

《掲載記事の転用可(事前連絡要)》

この数年の間に妻が急に病弱になり、突然の大不況で子ども失業の心配が出るし、大病に罹らなくても自分の加齢と共に健康状態も気がかりである。すると愚かなもので、心を占めることは(自分)のことだけで、過去や遠方の戦争や自然災害も気にかからなくなるから恐ろしい。いと小さき者や友のために命を捨てる友愛精神に比べ我が身が罪に呪縛されていることで自己嫌悪に陥る。こういう時には、自らが「陶工の手」(エレミヤ18・6)の中にあることが忘れられ最悪の自立自存になっている。
近年の社会は「自己」中心であって、人間の生存全体も人間を導く規範も神のみ手

《み手のなかで》

陶工の手

司祭 木下量熙

の中にあるとの思いが傍らに押しやられて
いる。「ならぬことはならぬものです」(会
津藩・日新館の什の掟を真に教える真の
神の姿が薄くなっている。そのために人間
は、見かけでは自分の人生の自己決
定権を持つ強い人間になったかもし
れないが、人間の被造性・有限性を
忘れ、神のみ手の中にしかない真実
の安らぎをも失ってしまった。
神のみ手の中に憩うことは、悟り
の境地ではないし、無力感や責任回
避の表明でもない。牧者であり陶工
である神は人間を集め治め人間を裁
かれる(エゼキエル20・32〜38)。
神のこの絶対的自由の中に生きる信
仰こそが、日毎に我々に慰めと勇氣
を与え謙遜を生み出し愛の源泉となるの
ではないかと思う。

(千住基督教会勤務)

◇第109(定期) 教区会明日開催 明11月23日(月・休)、9時からの聖餐式(主教座聖堂)をもって秋の定期教区会(聖アンデレホール)が開催される(議長・植田仁太郎教区主教)。

秋期教区会では主に次年度の諸活動計画と教区予算が審議されるが、ここ数年の教区内の動きに合わせた関連議案も提出される。来年度予算案では、教区予算の大多数を占める人件費関連で、教役者の俸給が若干減額され人数の増加による予算増を抑える処置がされている。教区費分担金制度を検討する特別委員会を設置案も提案される。現在の分担金制度になってから長年が経過し、さまざまな調整が必要、と判断されていること。

そのほか月島聖ルカ保育園の関連議案が4本提出される。園舎老朽化に伴う一連の検討作業を踏まえて、今後の同園の存立と月島聖公会の宣教活動をより近づけるための提案。さらに教区会細則の改正が2本提出され、宣教師の教区会議席の持ち方についての明確化と、信徒代議員の補欠増員が提案される。教役者議員42人、聖職候補生・伝道師6人、信徒代議員71人のほか、番外議員らも出席。書記には春期と同様、李民洙司祭と中村淳執事が当たる。

常置委員会(臨時) 報告

(11月10日)

*第109(定期) 教区会提出議案を精査、以下の件を検討。

*2010年度教区予算案。
*教区費分担金方法を検討する新たな委員会の設置。

*主教のビジョンにそって月島における宣教強化のため、月島聖ルカ保育園関連議案。

*教区会細則の一部変更。
*その他。

正義と平和協議会運営

委員会報告 (11月9日)

*活動団体等の近況諸報告。

*『協議会便り』を教区会に合わせて発行する進捗確認。

*12月5日開催のシンポジウム並びに協議会の準備。

*新しいプロジェクトの立ち上げについての協議。

*聖公会生野センターの公的な窓口についての確認、協議。

*その他。

【クローズアップ】 32

第2回将来計画担当者

意見交換会を終えて

教区企画室では、それぞれの教会・礼拝堂が現状を見つめ、将来に向けて取り組もうとしている計画についてアンケートを行い、それぞれの計画について知り合うための意見交換会を今年1月に開催した。

財政的な問題についてみると、現有の資源を有効に活用するためには抜本的な取り組みが必要との認識のもと、「教区全体としての教会の配置や、ある程度の規模の教会にするための合併や移転を積極的に考えてもよい」という地盤はある」との回答もあった。一方、財政的に支援されている教会の方

がそれほどシビアに受け止めていないようにも見受けられた。一概には言えないまでも、元気で余裕があるように見える大きい教会の方が、じつは課題に迫られ、現状を見据えざるを得ない状況なのかもしれないと思わされた。どこかが決めれば動き出すものであるはずもないので、各教会が自律的に元気になるために、それぞれの課題と解決策を見つけてきつかけを何とか作りたい。

このような背景のもと、今回の第2回意見交換会では、前半部で、主日礼拝平均出席者数によつて3グループに分かれ、どの教会も遭遇しつつある高齢化の問題を入り口に、教会の在り方と、何が出来るかを考えようとした。

ある教会では百周年を機に百年宣言をして、課題と取り組みの焦点を絞ろうとした。また、集まって来た人たちにどう教会に入ってもらおうかについて工夫している教会や、具体的に地域に役立つことを考えている教会があった。それぞれの教会が、その特性によつて工夫し、アレンジすることで活気が生まれることである。今回の話し合いを通して、相互理解が深まり、必要に応じて問い合わせる関係もできてきたようだ。

最後に、主教から「地域の人に届かなければ伝わらない。それには、私たちがいま持っているものに注目して進もう」との奨励を受けた。

教区企画室委員 小野 翠